



昭和34年4月18日制定

あさひ

学校便り10月号
令和元年9月30日
横浜市立旭小学校

「ワンチーム (ONE TEAM)」をスローガンに」

学校長 高桑 透

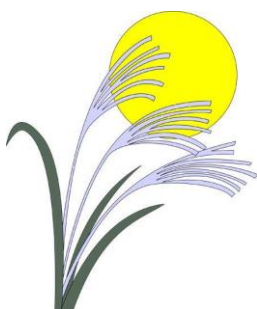
9月20日、ラグビーワールドカップが日本で開幕しました。私は以前からラグビーというスポーツがとても好きです。鍛え上げた肉体と肉体を激しくぶつけあいながら楕円形のボールを奪い合い、トライやゴールを目指します。タックルでボールを奪ったり、スクラムで相手を押し込んだりする力強さと、きれいにパスをつなぎながら、相手陣地にボールを運んでいく美しさに、いつも感動させられています。

また、試合結果以外にも、ラグビーという競技についていろいろと報道されています。試合終了を「ゲームセット」と言わずに「ノーサイド」と言ったり、「アフターマッチファンクション（試合が終わったら敵味方関係なく、全員で同じ酒を飲んで、お互いを讃え合う場）」があったりすることなど、このワールドカップを機会に、ラグビーの魅力がたくさん紹介されることもとてもうれしいです。

ラグビー日本代表は、「ワンチーム (ONE TEAM)」をスローガンとして掲げています。日本代表31人のうち、15人の外国出身の選手がいます。ほかのスポーツでも外国出身の選手が日本の国籍を取得して代表になって活躍していますが、ラグビーは日本国籍をもっていない外国出身の選手もある3つの条件に1つでもあてはまれば、日本代表になることができます。

半数近くが外国出身の選手である日本代表が一つのチームとして戦うためには、お互いのことをよく知り、尊重し合うことがとても大切です。そのため、代表で集まって合宿するときには、同じ国出身の選手だけで固まることのないように、小グループで食事をしたり、グループメンバーを考えたりするなどして、コミュニケーションをとってお互いのことを理解するようにしたそうです。また日本代表として誇りをもって戦うために、「君が代」の歌詞の意味を考えるなど、日本文化についても勉強したそうです。このようなことを積み重ねたからこそ、今では、「ワンチーム」となり、初戦のロシア戦、そして世界ランク2位の強豪アイルランドにも勝利することができたと思います。

「ワンチーム」になるために、お互いのことを尊重し合うという姿勢はとても大切だと思います。学校で考えれば、学級は「ワンチーム」でなければいけません。クラスにいる子どもたちも、それぞれ考え方も違えば感じ方も違います。ひとり一人がみな違うからこそ、お互いのことを理解し、受け入れなければならないのです。クラスの友だちは、一緒に成長していくための大切な仲間です。例えば、ラグビー選手は、自分がタックルにいったときに、そのあと必ず続けてタックルしてくれる仲間がいるから思い切って当たることができるそうです。ボールを持って走るときも、後ろから仲間が走ってくることを信じているから相手に向かっていけるそうです。この仲間を信じる心が、安心できる心がチームを強くしているのです。これは学級でも同じです。自分ががんばろうと思っているときに声をかけてくれたり、自分が失敗したときには励ましてくれたり、声をかけてくれる仲間がいることで、安心して生活していけるし、チャレンジできるのだと思います。本校の全学級が、ひとり一人を大切にし、尊重しあえる「ワンチーム」となることを目指したいと思います。



10月の取組目標

生活目標

落ち着いて生活をしよう

保健目標

目を大切にしよう

清掃目標

廊下や手洗い場をきれいにしよう

給食目標

食事の前後の過ごし方を工夫しよう